

帰らぬ母に

帰らぬ母に
私は問いかける
そこに花は咲いていますか
暗く小さな工場の中
白い塵（ちり）が舞っていましたね
粉雪のように

帰らぬ父に
私は問いかける
そこに陽はさしていますか
油で汚れた作業場で
働きづめの日々でしたね
子供たちのために

帰らぬ友に
私は問いかける
そこに風は吹いていますか
せわしく行き交うシャツルの音
がんばりやの織り子さんでしたね
なにも知らされずに

遺されたあなたに
私は願う
もう涙は流さないことを
そして安らぎがあることを
いしわたの町に生まれ
いしわたの町で育ち
あなたは今顔を上げて
五月の空へ
歩き始める

大阪の泉南地域。アスベストが原因で亡くなったのは、私たちの母や父や友人だけではありません。
石綿紡織百年の歴史の中で、この何十倍何百倍の人が理由も分らず、知られることもなく、死んで行きました。
この詩は、国賠判決の日に間に合うよう、原告有志で話し合って作りました。
犠牲になった人々に心をこめて捧げるとともに、ノンアスベスト社会の実現に向けて、これからも力を合わせる決意です。

大阪・泉南アスベスト国賠原告一同